

論文審査の結果の要旨及び担当者  
Summary of the Dissertation Review and the Approval

氏名 Name	Mallawaarachchi, Chamila Geethanjalee	
論文審査 担当者 Committee members	職 Title	氏名 Name
	主査 Chair	大阪女学院大学教授 馬淵 仁
	副査 Member	大阪女学院大学教授 黒澤 満
	副査 Member	大阪女学院大学教授 Johnston, Scott
<p>論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨 Dissertation abstract and summary of the dissertation review</p> <p>論文の内容の要旨</p> <p>本論文は、多民族・多宗教国家のスリランカにおいて、26年間に及ぶ内戦がもたらした民族間の不一致が、2009年に内戦が終息した後も国家統一による平和の達成にはほど遠い実態を残す現実に直面した学位申請者の問題意識に端を発したものである。同国では、政府とともに幾つかの機関が、社会統合と平和の促進に向けて教育を含む多くの方策を展開してきた実績もある。本研究は、そのように複雑な状況下にあるスリランカの社会統合と平和のための教育について分析を試みたものである。</p> <p>まず序論で以上の問題意識を概説した後、第2章では、平和と多文化概念について、特に平和教育、多文化教育の役割とその実施に係る考察を試み、本稿の理論的枠組みを提示している。</p> <p>第3章では、スリランカについて、人口統計的な、また社会・経済・政治的な状況を説明し、さらに教育の現況を概観することによって、研究対象のコンテクストとしての同国の現況を分析している。さらにスリランカの国家レベルにおける最新の教育政策では、社会統合と平和のための教育に関して、カリキュラム、教師教育、第二言語教育、学校文化とコミュニティ、学校と地域の統合、学校外教育、調査研究という7つの領域における取り組みが提示され、同様のプログラムがNGO機関によっても言及されていることを示し、本研究において、それらのプログラムが社会統合と平和のための教育にどのように展開されているか、実際と照らした評価を試みることとなった経緯が説明される。</p> <p>第4章で述べられる研究の方法論では、各プログラムが関係する人々にどのように認識されているかを掘り下げるために質的調査を重視した点、そして同時に、調査結果の分類のために、一部量的手法も用いたことが説明されている。</p> <p>第5章と第6章では、リサーチによって得られた知見が述べられる。政策担当者、教育プログラムの実施者に対して行った、またスリランカの9州のうち5州における公立・私立の学校や関係機関の教員・生徒を対象に実施した質問紙調査と聞き取り調査の結果が分析され、全般的には、国家レベルでの教育政策と調査対象者の理解との間には強い関係性が認められること、領域によっては、教育政策が肯定的な効果をあげているとの知見が得られたこと、ただし、プログラムへの理解が実際の効果にまで至っているかは領域によってばらつきがあること、などの分析が詳述される。</p> <p>第7章の結論では、以上の研究結果を概観し、最後に今後の課題として、各地の教育機関や学校とNGOなどの協力を地方レベルで図るといった勧告など、教育政策の浸透が十分でない領域について、学位申請者としての提言を述べて本稿を閉じている。</p> <p>論文審査の結果の要旨</p> <p>上記3名の論文審査担当者としては、使用文献の提示や英語表現についてなど幾つかコメントはあるものの、本稿が本学の博士（国際共生）課程の論文として相応しい論稿であることを全員で認めるに至った。</p>		